

マイナ救急実証事業

実施期間 R6年8月23日～10月23日

磐田市消防本部 警防課

磐田市消防本部

管轄人口 165781人 (R6・10・31)

管轄面積 163.45km²

消防本部 1本部 1署 5分遣所

職員数 209人(救命士64人)

受付方法 中東遠消防指令センター

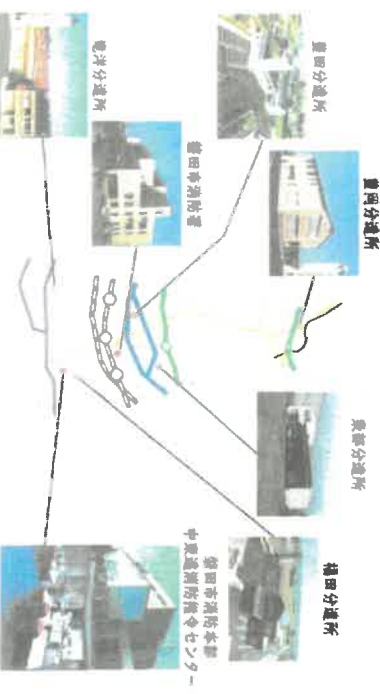
(5消防本部で共同運用)

救急隊数 8隊 (1台は非常用救急車)

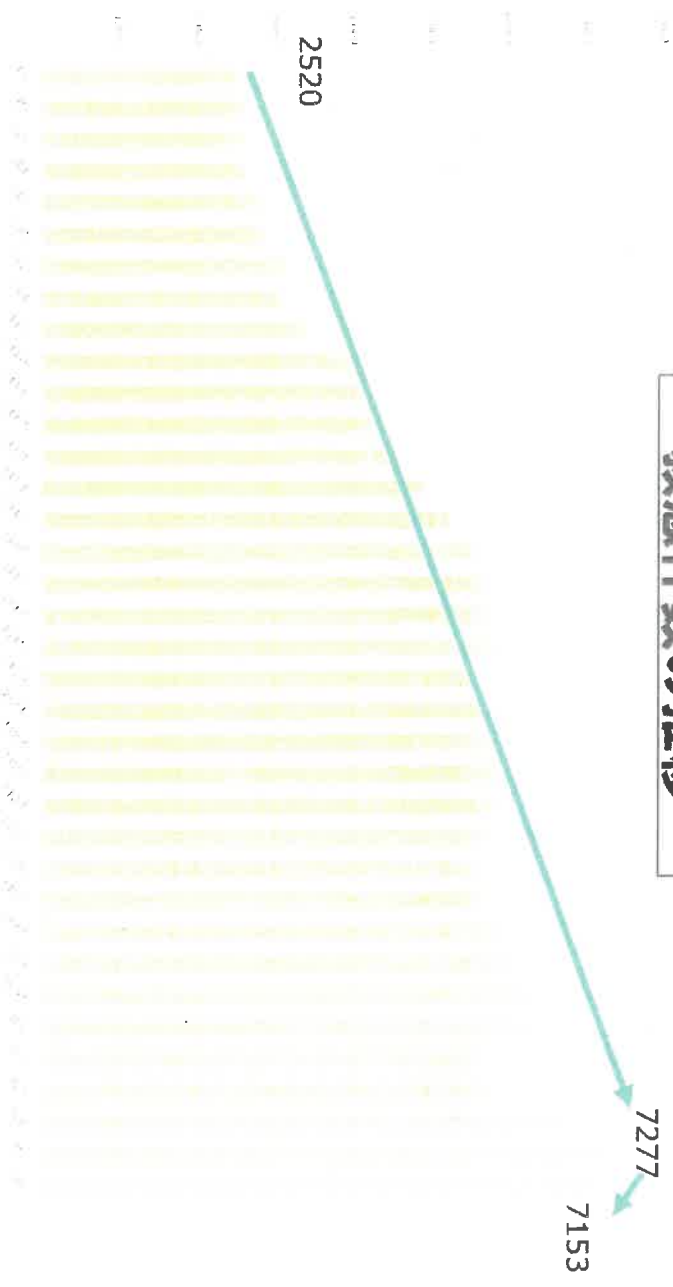
出場件数 7277件 (令和5年)

7153件 (令和6年)

磐田市消防本部と中東遠消防指令センター



救急件数の推移



実証事業開始までの流れ

- 消防庁との窓口は警防課救急企画室
- 各署所を巡回し事前説明と同意
- 参加救急隊 8救急隊
- 事業対象 すべての救急事案
- 閲覧権限 64名の救命士に付与
- 救命士が実機を用いて操作確認と訓練
- 指令センターに協力依頼



実証事業開始までの流れ（消防外）

關係機關

総務課(マイナンバー、個人情報の関係)

財政課(今後の費用について)

福祉政策課(救急の情報収集について)

磐田市立総合病院(協力医療機関)

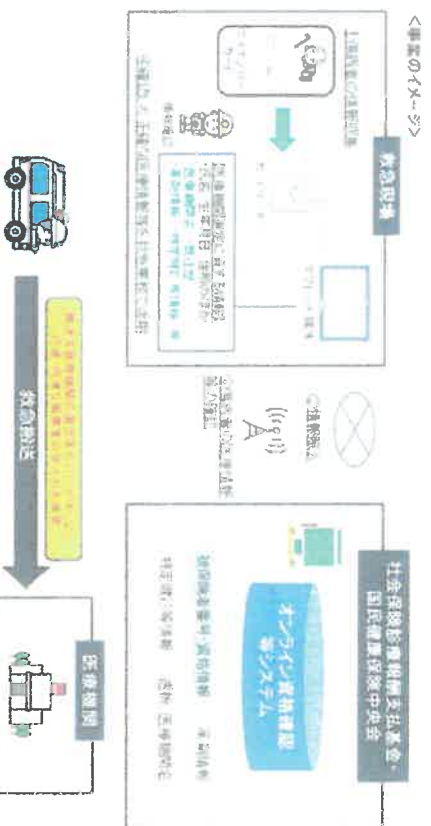
※事故報告要領の確認等

中東遠MC協議会(事業参加報告)

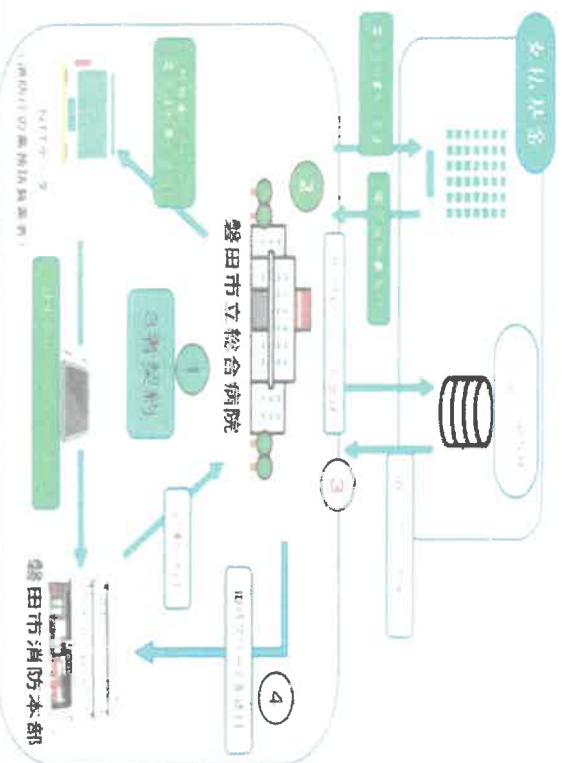
CP課(広報関係)

契約検査課

(病院・NTTデータとの契約関係)



オンライン資格確認システム(利用の流れ)



事前準備での懸念事項

個人情報への取り扱い

磐田病院で受付した患者情報を誤って閲覧する危険あり

複数のパスワード認証への対応

機器の取り扱い

盗難や紛失

現場での他人の目



広報について

広報いわた



SNS



Yahooニュース



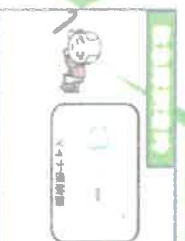
8月23日～10月23日までのマイナ救急実証事業実施状況

情報開示件数(A)	マイナ教員	マイナ保険証	情報開示した割合
1,090件	975件	97件	87.2%

マイナ救急[マイナンバーカードを活用した救急業務の円滑化]

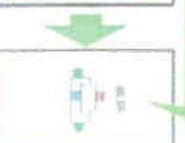
また救急とは、救急隊員が傷病者のマインナ保険証を活用し、病院費定等に資する情報を把握する取組

自分の名前や数入っている票を
投票箱に正確に入れることが出来る



内閣は憲法先例の尊重や
道義に基き、急激な削減を
断る

また2、4番車場の間に
2、4番線

[illegible]

67消防本部660の隊において、約2ヶ月間の大延焼を防止、
・その救急により、消滅した件数は11,398件、
・死者事例及び負傷者数は、僅かである。消防がそれらの声援が、
・その結果を参照

[illegible]

20.6 總計

[illegible]

三、東部地區の煤産 令和6年度 660千トン 令和7年度 5,334千トン

- ・スマホ被害者の知照向上を図るため、スマートフォンにて作成したSNS（YouTube、消防庁X等）で広報を行うことと、全国の消防本部、都道府県等へ提供

[illegible]

マイナ救急 活用事例

マイナ救急 令和6年度実績事業

〇救急現場にいた関係者が高齢の夫婦のみだった事例（円滑な病院搬送に繋がったケース）

- ：60歳代 男性
- ：傷病者の妻から、自宅で夫がうつ伏せで動けない、
- ：傷病者は、うつ伏せ状態のまま動けず、意識の疎忽が図解な状態であり、また、通報した妻も、傷病者の病歴や飲んでいるお薬を把握していない状況。
- ：自宅にあった傷病者のマイナ保険証から、傷病者の通院履歴や薬剤情報を閲覧し、これらの医療情報に基づき円滑に搬送先を決定し、これらの医療情報を病院へ伝達した。



<マイナ救急の有用性>

高齢の夫婦のみで情報把握が困難な事業であったが、マイナ救急を実施することにより、救急隊が正確な情報を把握し、搬送先病院を円滑に搬送することができた。

〇実家に帰省中で、お薬手帳を所持していなかった事例（円滑な病院搬送に繋がったケース）

- ：50歳代 女性
- ：帰省先の実家において、食事中に意識を失い、椅子から床に倒れこんでしまった。
- ：傷病者は精神疾患で薬が処方されていたが、帰省中であったためお薬手帳を所持しておらず、飲んでいる薬が分からない状況。
- ：傷病者が所持していたマイナ保険証から薬剤情報を確認し、これらの医療情報に基づき円滑に搬送先を決定し、これらの医療情報を病院へ伝達した。



<マイナ救急の有用性>

お薬手帳を所持しておらず、薬剤情報不明のため、搬送先医療機関の医師が処方するおそれがあったが、マイナ救急を実施することにより、薬剤情報を確認することができたため、搬送先は初診の医療機関ではあったが、円滑に搬送先医療機関を搬送することができた。

マイナ救急 活用事例

マイナ救急 令和6年度実績事業

〇苦しさのため傷病者の説明が不明確だった事例（かかりつけ医療機関への搬送に繋がったケース）

- ：60歳代 男性
- ：身体全員のたるさがあり、愚苦しさが治まらない、
- ：傷病者の話にまともな理解ができず、詳しい症状を聞くことができなかった、かかりつけ医療機関の記憶もあいまいで、具体的な病歴も本人は覚えていなかった。
- ：本人からマイナ保険証の提示があり、マイナ救急により、かかりつけ病院と薬剤情報を閲覧、薬剤情報から処方腎不全ということが判明し、かかりつけ病院に連絡し、搬送した。



<マイナ救急の有用性>

傷病者が苦しみにより救急隊に口頭で説明できない状況においても、マイナ救急を実施することにより、かかりつけ病院や薬剤情報を確認することができ、円滑にかかりつけの医療機関へ搬送することができた。

〇外出先で意識障害を起こした事例（救急車の適切な応急処置に繋がったケース）

- ：60歳代 男性
- ：外出先でふらつき、立ち上がることができない、
- ：傷病者は意識がはつきりしておらず、会話ができない状態であった。
- ：なご意識障害を起こしているか分からない状況であったが、傷病者が所持していたマイナ保険証から医療情報を確認したところ、既往歴として糖尿病であることが判明し、血糖値を測定した。搬送中に意識レベルが回復し、病院到着時には会話可能な状態まで回復した。



<マイナ救急の有用性>

既往歴から適切な応急処置を実施することができ、搬送先の医療機関に到着したときまでに、会話が可能な状態まで回復した。

マイナ救急 活用事例

マイナ救急 令和6年度実証事業

○自転車で転倒し、外傷を負った事例（速やかな病院連絡に繋がったケース）

- ・50歳代 男性
- ・自転車を運転中に転倒した。
- ・生命を脅かす外傷は確認できなかったが、持病など別の要因により転倒した可能性もあるため、既往歴等を確認する必要があった。
- ・隊長が詳細な全身観察、受傷した部位の観察及び問診を行うのと並行して、別の隊員が持病が無いかどうかマイナ救急により既往歴等を確認。備考者に直接質問することなく、マイナ救急で既往歴等がないことが確認できたため、速やかに医療機関に連絡した。

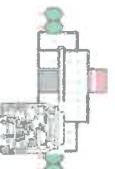


＜マイナ救急の有用性＞

備考者の観察や問診と並行して、マイナ救急で既往歴等を確認できたため、不必要な質問をせずに、速やかな病院連絡に繋がった。

○意識がもうろうとし、意識疎通困難であった事例（医療機関の事前準備に繋がったケース）

- ・70歳代 男性
- ・足がふらつき、意識もうろうつの状態
- ・備考者は意識もうろうつの状態であり、意識疎通が困難な状況。
- ・マイナ救急により確認できた薬剤情報から、消化管出血による貧血を疑い、緊急内視鏡及び緊急輸血可能な医療機関を選定し搬送した。



＜マイナ救急の有用性＞

マイナ救急を確認することにより、飲んでいる薬が分かり、その薬の効果や症状から病名を推測し、適切な医療機関を選定することができた。また、搬送先の医師からは、「服薬情報を事前に得られたため、緊急オペなどの事前準備ができた」と感謝された。

マイナ救急 救急隊の声

マイナ救急 令和6年度実証事業

救急隊の声

- 救急の医師のめい、情報収集が困難だったが、マイナ保険証から情報が取得できた。
- 外出先の事故でお薬手帳を所持していなかったが、薬剤情報が分かった。
- 頭痛の症状が強く会話が困難であったため、マイナ保険証から情報を取得することで、備考者の負担を軽減できた。
- 意識障害で、情報把握が困難だったが、マイナ救急で既往歴が分かったので、適切な急処置ができた。
- 意識清明だったため、本人から情報を聴取できたが、マイナ救急で得られた情報と一致していることを確認でき、情報の正確性の高いことができた。



・年齢別で見ると、高齢者の件数が7,134件(62.6%)と、最も多かった。

→引き続き、高齢者に対する広がりを見込める。

・発生場所別で見ると、住宅の件数が8,475件(74.4%)、外出先が2,361件(20.7%)となつた。

→実証事業においては、マイナ保険証を準備しやすい住宅でのマイナ救急実施率が高かったが、外出先の事故でも有用性が確認されていることから、マイナ保険証の活用を呼びかけで広げていく必要がある。

・意識不明等・意識疎通が困難な場合に情報閲覧した件数は839件(7.4%)。

→特に意識不明等・意識疎通が困難な場合にはマイナ救急の有用性が高いほか、意識清明な事案であっても、備考者の負担軽減や情報の正確性の裏付けに繋がることが分かった。





マイナ救急 傷病者の声、病院の声



マイナ救急 令和6年度実証事業

傷病者の声



- マイナ保険証で、緊急時に必要な情報が得られるのは、とても良い取組ですね。過去に受診したことがある病院や服用している薬の情報も記録として残るので、緊急時に便利だと感じました。
- マイナ救急については、救急で事前を知っていた、処方箋が効かず、マイナ保険証が役に立って良かった。
- 健康保険の持病があり、意識がなくなる可能性もあったので、治療が受けられ助かりました。
- 救急で、薬の量や用法、情報もマイナ救急で伝えられるので、助かりました。
- マイナ救急についてスマホで知った。有効活用できるといいことで、マイナナンバーカードを作成したので、実証に協力しました。

病院の声

- 傷病者の氏名、年齢等の特定に要する時間が減り、診療に重きを置くことができた。
- 正確な情報は活動に必要なので確実に役立ちます。救急処方の回数にも役立ちと考えます。
- 飲んでいる薬が事前に分かっていたので、緊急オペの事前準備ができました。
- 意識のない傷病者の場合、救急隊や家族の情報が足りず、独居や身寄りのない高齢者輩者が増えているので、事前に情報が分かるのはありがたかった。



- ・傷病者や病院からも、マイナ救急の有用性の声があった。
- ・傷病者が広報紙やラジオで、実証事業について事前に把握していたため、協力を得やすかった。
- 広報紙やラジオをはじめ、様々な媒体を活用した広報が必要。

令和7年度も実証事業を行います

1 実証事業の実施消防本部等

- ・実施消防本部：全国すべての消防本部（720 消防本部）
- ・実施救急隊数：5,334 隊

2 実証事業の開始時期

- ・昨年からマイナ救急実証事業を継続する救急隊（660 隊）
- ・令和7年4月以降、準備が整った消防本部から順次開始する予定
- ・新たにマイナ救急実証事業に参加する救急隊（4,674 隊）
- 4 月中旬に開始時期を別途お知らせする予定

3 期待される主な効果

傷病者の負担軽減に繋がるほか、観察結果・症状（現病歴）とマイナ保険証を活用して得られた情報（受診歴・診療情報・薬剤情報・特定健診情報等）から総合的に判断し、傷病者に適応する搬送先医療機関の選定等に効果が期待できる。



「あなたの命を守るマイナ救急」をお願いします

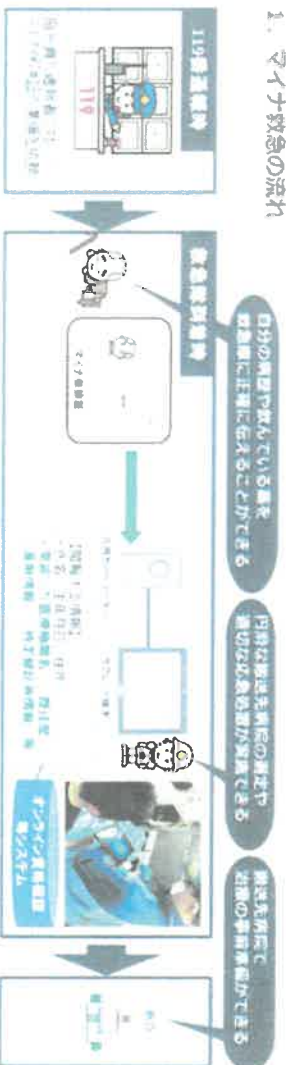


救急現場での操作性に優れた専用システムを活用

実証事業イメージ図(案)

参考資料2

1. スマート救急の流れ



2. 実証事業の活動イメージ



実証事業における救急隊の活動フローチャート(案)

参考資料3

119番通報の受電時、搭乗時は通報者に搭乗者のスマート保険証の準備を依頼する。



ありがとうございました

スライドは以上です

